

「学園だより」  
1994. No. 128  
平成6年10月11日  
三重大学国際文化センター

部局だより

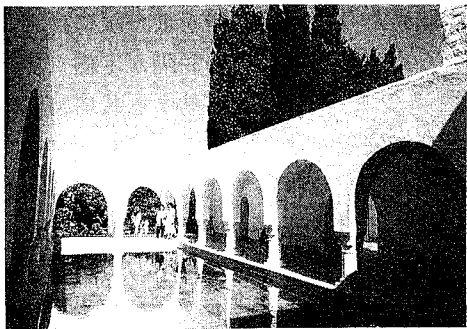
人文学部

ハマメット国際文化センター「聖なるものの表象，その逆説」に参加して

稲賀繁美

白亜の丸天井に支えられた会議室の扉を開くと、乾いた潮風が心地よく流れこんできた。6月の陽光に映えて色とりどりに花を咲かせるサボテンの群れ。そのあいだを縫って砂丘を2分も下れば、そこにはもう紺碧の地中海が広がっている。抜けるように澄んだ青空の下、沖には風を孕んだ白い帆が滑る。チュニジアきってのリゾート地、ハマメット。北の海岸線沿いにはバンガロー風のホテル群が広がり、南の湾の奥には旧市街のカスバが迷路のように入り組んでいる。その中間に位置したこのヴィラは、ルーマニアの大富豪、ダール・セバステイアンの別荘を1962年チュニジア政府が買い取ったもの。いまでは国際文化センターとして、夏の国際演劇祭をはじめとする催しを組織し、チュニジアの文化活動の一拠点となっている。ハイビスカスや夾竹桃、ブーゲンビリアなどの熱帯の花ばなが原色の競演を繰り広げる広大な庭園の奥に、チュニジア式に純白の回廊を巡らせ、その中央には長方形の水盤（というよりプール）が清冽な水を深々と湛えている。青い空と白い壁の対比が水面に影を映してまことに清々しい。

地中海文化圏ならではの生活の知恵を集約したこのヴィラは、小説家アンドレ・ジッド、画家マッケヤクレーそしてジャコメッティーを引き付けたばかりでなく、ロンメル将軍が暮れゆく第三帝国のつかの間の夢を育んだ休息の地でもあれば、これに勝利したウィンストン・チャーチルがその自伝の一部を執筆したことでも知られる名跡である。芸術・文化の国際交流をその使命とするこの客人歓待の場に今回はチュニジアの



作家アブデルワハブ・メデブの組織で、イスラーム学者、人類学者、芸術家、美術史家、哲学者、詩人など20名余が集った。アラブ・イスラーム圏、欧米さらには台湾・中国本土に至る多様な国籍の参加者は、13世紀のイスラーム神秘主義者、イブン・アラビの言葉を導きに、宗教や文化、専攻の違いを相互に尊重しながら、聖なるものをめぐっての造形や思索、宗教体験や学識を熱心に交換した。熱い討議の1週間は夢のように過ぎていった。

(いなが しげみ 人文学部 助教授)